

月刊「神戸っ子」昭和38年11月10日印刷通巻32号 昭和38年11月10日発行 毎月1回10日発行

郷土を愛する人々の雑誌

神戸っ子

1963/11



RICOH

monthly magazine kobekko november 1963 no. 32

Mikimoto Pearls

真珠は花嫁の宝石です。

ミキモトの粒よりのパール
は世界中の花嫁のあこがれ
になっています。ミキモト
パールはいつまでもかわら
ぬ輝きをもつやさしい愛の
シンボルです。

 ミキモトパール
御木本真珠店

神戸店 = 三宮・神戸国際会館

Tel. 22-0062

大阪店 = 堂島・新大ビル

Tel. 361-0220

本店 = 東京・銀座四丁目

これは神戸を愛する人々の手帖です

あなたの暮らしに楽しい夢をおくる

神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ

これは神戸っ子の心の手帖です



生田神社の小絵馬

加藤盛男 (神戸史談会)

神戸の地名はその昔、生田神社に奉仕した四十四戸の農民の聚落より発生したもので生田神社は神戸の大切な神社であります。そこに毎年正月の初参りに氏子に贈られる美しい小絵馬があります。獣をのぞいてその年の干支が描いております。獣は「去る」に通じるので余り喜ばれない様です。他にえびらの梅にゆかりの源原源太の武者絵等もあります。あなたも生田神社の小絵馬を蒐集しては如何ですか。

カット・中西 勝 (二紀会)

お口の香り

指先にはさんでシュッ、シュッと楽しんで下さい。霧になってフルーツの甘さとハッカのさわやかさがとびこみます

■お出かけ前

まず気分を一新して下さい

■ダンス

息がホホにふれても大丈夫

■デイト

あまく明るい会話のために

■飲食喫煙後

お口からニオイが消えます

■おやすみ前

抗酵素剤でムシ歯もふせぐ

≤新発売⇒
資生堂 オーラルフレッシュ



300円

Young Ladies of Kobe

The Queen of the Sea(middle) and her court stand together at the gate of Sorakuen.

The girls were chosen for their modern sensitivity and traditional beauty at the contest. Sorakuen is a Japanese garden for the citizens. A European styled mansion of the last century are conserved there.



神戸と女性

《海の女王》



海の女王は、神戸新聞社主催の
美人コンテストで選ばれます。

63年度・ミス海の女王たちです。
みんな神戸っ子でさっそうとし
ています。着物姿の女王たちは
スタイルがいいから立派です。

—相楽園で、みなと祭の日に撮影—

内本恵子 女王代表〈川崎製鉄勤務〉

福本矩子 〈芦屋女子短大在学中〉

難波勝子 〈小川洋装学院在学中〉

船瀬千津子 〈家事〉

仲上早百合 〈日立製作所勤務〉

写真上左から 難波勝子・内本恵子・
仲上早百合
写真下左から 船瀬千津子・福本矩子
のみなさん



確信をもって
タジマの目が選んだ
世界の宝石の名品！

Tajima
宝飾店 タジマ

元町2・TEL(3) 0387・2552



神戸っ子のはきだおれ
ほんとうにおしゃれ
な方は、足もとに心
をくばります。
まる喜では、今
本ワニやトカゲの品
を豊富にとり揃えて
皆さまのご来店を、
お待ちいたしております。

ワニ 加工品 ¥ 3,200~15,000
トカゲ シ ¥ 2,800~ 5,800
ワニ 丸 物 ¥15,000~45,000
トカゲ ク ¥ 4,500~ 8,500

趣味の履物

まる喜

神戸三宮センター街

電話 ③ 4478



11月 目次

生田さんの小絵馬／文・加藤盛男／え・中西勝	1	34 わんぱくざかり江戸日記・伊達俊太郎
□グラビヤ／神戸と女性・海の女王と相楽園	3	36 おしゃれなスカーフ／福富芳美
*わたしの意見／人間関係を密接にしよう		41 暮しのアクセサリー⑧／矢野 坦
アメリカ総領事・ジエ・オエン・ザヘーレン	9	44 □宝塚50年を語る□ 懐かしのモンパリがレビューのはじまり
Kobe is like a Cocktail／C. Aillion	10	白井鉄造・春日野八千代
何でもある神戸／C. エリオン（オランダ）	12	49 ピンクコーナ（T）
連載隨想第十五回 バトカー同乗記／白川 渥	14	52 神戸うまいもん巡礼 No. 15／赤尾兜子
れんさい隨想／@神戸のこと手当り次第・淀川長治	16	54 紳士入門⑨／マイカー紳士・竹田洋太郎
連載隨想第四回／ペニスの絵・阪本 勝	22	56 ポケットジャーナル
連載第九回／神戸とエトランゼ		58 KOBEKKO SHOPPING GUIDE
神戸っ子 ジョン・ブル・陳 舜臣	27	64 神戸夫人 第7回／武田繁太郎
神戸遊戯誌3／ゴルフ③・青木重雄	32	71 □グラビヤ秋の神戸港／カメラ堀内初太郎

Fuckheim's

ドイツ菓子

ピラミッド
ビスケット
各種ケーキ

ユーハイム

本店・三宮生田神社西隣
神戸そごう・神戸三越・国際名菓店



?

- A. おしゃれな男の集まるところ
- B. シャープな男がさがせるところ
- C. 新らしい流行を知るところ
- D. 服飾のすべてがそろったところ
- E. それがMACといううわさ
- F. そんな気持でつくりました

男の服飾

Mac マック

三宮本店 神戸センター街
TEL ⑨ 0895
トアロード店 センター街西口
TEL ⑨ 0896
新聞地本通り
TEL ⑤ 7688
姫路駅デパート
TEL ⑨ 1261

*わたしの意見

人間関係を 密接にしよう

ジエ・オエン・ザヘーレン

神戸・大阪米国総領事



—こんど日米市長、商工会議所会頭会議が神戸で開かれましたが、あなたはどう思われますか—

日本と米国との関係が深くなることは大いに歓迎します。国際関係で一番大切なことは理解するということでしょう。国民と国民とが、相手と直接話しあうことができるのですから、より効果があつたと思います。

—原子力潜水艦の寄港についておたずねしますが、神戸港に寄港するのですか、また、多少の危険性はあると思ひますか—

米国が寄港を申込んだのは、横須賀と佐世保の海軍基地だけですから、神戸には寄港しません。また、原子力潜水艦に限らずほかの船でも危険性はあります。

“生命に危険がない”と言うと無意味になるでしょう。原子力潜水艦だから、より注意し、より安全をはかればよいと思います。直に危ないから反対だといわれる人には、いくらでも説明して納得していただきます。ただ、政治的なものに結びついて反対されるのは困ります。

原子力潜水艦だからより危険だということはないのです—米国のワシントン州と兵庫県とが姉妹関係を結びましたが、どう思われますか—

ワシントン州は多くの日本人たちが、移民をしていましたし、日本から、ハワイ経由、アラスカ経由でアメリカに行くときの入口です。兵庫県とはよく似ています。だから、互いにいい宣伝にもなりますし、わたしの意見としては、学生、教授など文化の交換をさかんにして、人と人との関係を密接にすることこそ重大だと思います。10年も日本にいらっしゃるのですが、神戸をどう見られますか、趣味は何ですか—

あまり内容のない話は興味がない。日本のことは日本人の方がよくご存知の筈です。趣味は多いがとくにいえば写真です。カメラはキャノン。撮影機はコダックをもっていますし、福岡にいたときは、カメラの同好会にもはいっていました。ほかに趣味といえば、新聞記者をいじめることですね。

on my back and float all the way to the front of Tenjin Bashi beach. well; some kids suddenly started to yell "Dozaemon ga ui toru !",—a drowned is floating !-, before I knew there were about 30 people following down along the beach, so I decided to swim to the shore as I did not wish to collide with any "dozaemon", but to my suprise, when I got to the shore, it was ME who was taken for a "dozaemon". After this I decided not to float so long.

Kobe provides large Stadiums where good Base-ball games are seen, also Horse-Race Course —keiba jo— good Golf courses in the suberbs and unique Girls Operetta show in Takarazuka where good and elaborate musicals are enjoyed. Though heated, there is also the Takarazuka Onsen -carbon dioxideated common salt spring- Kōsen.

There is Arima Onsen, behind Kobe City so to say; is of great antiquity, but generally the people of Kobe do not appreciate and pay little attention, being I think it is too near—somehow the people like to go far distant for Onsens. There is an old Japanese saying "When you are ill, go either to the Doctor or to the Arima spring; but if you are love-sick, neither the spring nor the Doctor can cure you".

In the olden days, only access to Arima was on "Kago", and later by train via Sanda. My

Father use to go by rickshow —kuruma— with sakibiki and ato oshi. The fare was ¥1.00 per man, but they were so keen to go that they use to draw lots - the reason was that they could stop over-night in Yado and enjoy onsen with two meals for, 50 sen, and came back next morning to Kobe. Now its only 45/48 minutes by tram and less by motor-car.

The Foreign Hotels in Arima charged ¥2.50 per day including meals. There were two, Sugimoto Hotel and Masuda Hotel. It was a rickety building equipped with very old style furniture but answered the purpose then, and many Foreigners from Kobe went in Summer, even from as far away Shanghai many came.

Kobe to me, after all is like Cocktail, various things mixed. Historic in one way, has many cultural aspects, and yet there are Bars, night-clubs strewn all over the town, not forgetting Turkish Baths - a city of night-life, a important business center, a great shipping Port, a city of large factories, known for Nada brewed Sake, a city of restaurants of all Nation's food - thus I say Kobe is one of the most interesting place and best place to live in Japan.

by C. Aillion. Hollander
(Retired - Inkyosan)

Kobe is like a Cocktail

C. Aillion

(Hollander)



To reside, being a "Kobekko", I must say the City of Kobe without doubt is the best place to live in; as the mountains and the sea are so near, and the City itself is very interesting.

Kobe is blessed with numerous hiking-routes behind the hills to Rokko, Mayasan, Futatabi; where beautiful recreation parks are located.

In olden days one had to walk up to Rokko or go by Kago via Gomo. To Mayasan and Futatabi, the only way was to walk over Ikari yama; pass Nihon Matsu or via 20 Crossing up Nunobiki water-falls. Now cable-cars will take you up in few minutes, besides there are now good paved motor-roads where you pass beautiful mountain sceneries.

In olden days many Foreigners took a walk up to Futatabi on Sunday mornings and enter their names in a book kept at Chaya near the entrance to the temple, but nowadays very few do so. I attribute this to many Bars and Night-Clubs; and on Sundays many prefer to stay in bed till noon or later. If they do go at all, it will be a motor-car drive.

The most interesting season I must say is the Cherry Blossom time—Hanami—where people have outings in group to enjoy "obento" under the Cherry trees with ofcourse plenty of Sake. At the beginning it is nice to see them enjoying

themselves with songs and dances, but cannot say the same after 3 or 4 O'clock in the afternoon. The reason is some of them get so drunk and obnoxious, the fight starts with the very friends they have been drinking together and others in the party tries to intervene; and in doing so accidentally get a whack on the head, fellow loses his temper; being not too sober and the fight gets bigger and bigger—now the wives try to stop their respective husbands and in the bargain, they get hit in the scuffle. Finally somebody informs the police and the violent ones are taken away and peace returns or break up the merry party. I think this is the most interesting part of "Hanami".

In Summer there are many bathing places, the most popular ones are in Koroen and Suma, and along the beach are numerous huts for bathers to change, provided with shower in some of them and selling cool drinks and eats. Unfortunately the water is not too clean.

I once had a funny experience. I am a person who can float; lying with my arms beneath my head, legs stretched out straight, as if on the floor and can smoke cigarette and enjoy being carried down by the tide for hours. In Suma, tide is rather strong; which flows from West to East in the afternoon, so I use to swim out for about 60 feet in front of Suma Station beach and get

神戸に住めば郊外にいい野球試合が見られる大きい球場がある。競馬場がある。そして宝塚では独特の少女のオペレッター、凝ったミュージカルが見られる。湯にわかしたものだが、宝塚温泉——炭酸——塩泉——鉱泉がある。

いわば神戸市のうしろ側に古くから有馬温泉がある。しかし神戸からあまり近く、そして人は温泉というと遠くへいきたがるためか、神戸の人たちは、一般に有馬温泉を有難がらないようである。

こんな古い日本のことわざがある。「病気になれば、医者か有馬の湯へ行けばよい。だが恋わざらいは有馬の湯も医者も治すことができない」

昔は有馬に行くにはカゴしかなかった。のちには三田を経て汽車でいった。私の父はクルマ（人力車）を先曳きと後押しとでいったものである。料金は1人当たり1円だったが彼らはそれ以上大勢で引いたものである。というのは彼らはヤドで食事つき1晩宿りで50銭でまた翌朝神戸に帰れたからで、いまでは電車で45~48分、自動車ならもっと速くいける。

有馬の外国式ホテルは食事つき2円50銭の料金だった。そしてスギモト・ホテルとマスダ・ホテルの二軒あった。それらは危っかしい建物で古い家具が置かれていたが、当時は結構間に合った。多勢の外国人が神戸から、ときには遠く上海から何人も夏にはやってきたものである。

神戸にはたくさんの歴史上有名な場所やお寺がある。大阪から須磨の一の谷にかけて血なまぐさい戦いを思い出さ

せてくれるところだ。今は若い時代の人たちに忘れられ、戦いの跡にたてられた記念碑は雑草におおわれて見捨てられ、子供が碑にのぼったりする遊び場となっている。人びとはあまり忙しいのでこれらの古い歴史的な記念碑や墓地を保存しようという気もない。彼らは道路を拡張するのに邪魔だといい、多くは近代建築をたてるためどこかへ押しやられていく。寺社の境内は歴史の跡を止めるよりも駐車場へと変えられる。たしかにそれは進歩であり収入を高めることになるかもしれない。しかしこのはげしく行なわれつつある変化には、同時に古い歴史的な遺物への考慮と尊敬が必要だ。それらの遺物はとりも直さず神戸の現在をつくるために犠牲となった祖先の思い出のよすがであるからだ。

(・この項英文では略してあります)

神戸は私にとって、つまるところいろいろなものがミックスされたカクテルのようなものである。一方では歴史的で多くの文化的なすがたを持ち、しかも町いっぱいにバーやナイトクラブがばらまかれている。トルコ風呂も忘れずに——海の町、重要なビジネス・センター——、大きな港大工場の町、灘の生1本で知られ、世界のあらゆる国の料理のレストランのある町——このように私は神戸が最も興味のある場所の一つであり日本で一番住みよい土地だとうのである。

(カットは筆者の温泉めぐりの写生)

何でもある神戸

C. エリオン

(オランダ)

——インキヨサン——



「神戸っ子」として住んで、私は神戸市が住むのに最も適した場所というべきだろう。山と海は近く、市そのものは実におもしろいといわねばならない。

神戸は裏山から六甲、摩耶、再度の山々へと多くのハイキング・ルートに恵まれている。そこには美しいレクリエーションのための公園がある。

かつては、人は六甲山へ歩いて登るか、カゴに乗って五毛を経ていかねばならなかった。摩耶山や再度山へはただ一つの道は錨山を経て二本松から布引の滝をのぼって、トウェンティ・クロッシング（二十渡り）をすぎる道しかなかった。いまでは、数分でケーブルカーが運んでくれるしすばらしい山の風景をすぎるいい舗装道路がある。

昔は多くの外国人が日曜日の朝、再度山に登り寺の入口にある茶屋に置かれた帖面に名を記入したものだ。だが最近はそうする人もまれになった。この原因は多くのバーやナイトクラブにあると私は思う。そして日曜の朝は、遅くまで寝ていたい人が多いのである。もし彼らがなんとかして行くとすれば、自動車のドライヴに頼るだろう。

もっともおもしろい季節は、桜の花の時季一はなみーというべきだ。人々は集って外出し、桜の木の下でオベントウを楽しむ——もちろん大量の酒とともに。最初は、彼らが歌や踊りを楽しんでいるのを見るのはよい。ところが午後の三時、四時過ぎとなると、そうはいえない。それは花見客の何人かが、酔っぱらい、うるさくなる。今までいっしょに飲んでいた友達と喧嘩をはじめる。他の連中はそ

れをとめようとする。そうしていると、たまたま頭を一発やられる。仲間はカッとする。相当きこしめしているものだから、喧嘩はますます大きくなる。奥さんはそれぞれの亭主をとめようとし、一齊にやると、奥さんも騒ぎの中でなぐられる。ついにだれかが警察に知らせ、乱暴者が連れ去られると平和は回復されるか、それともパーティは終りを告げる。私はこれが花見の最も興味ある部分だと思う。

夏には海水浴場がたくさんある。有名なのは香櫞園と須磨で、海岸に沿って多くの小屋があり、海水浴客が着かえたりできるし、いくつかはシャワーがあり、冷たい飲ものやたべものを置いている。不幸にも水はきれいでない。

私はヘンな経験をしたことがある。

私は浮き身ができるのである。床の上のように腕を頭の後にまわして、脚をまっすぐ伸ばし、煙草をふかしながら何時間も潮に流されるのを楽しむことができる。須磨は潮の流れが速く、午後は西から東へ流れている。そこで、私は須磨駅前の海岸から、60フィートばかり沖に泳ぎ出し、天神橋の海岸まで浮かんでいった。さて——子供たちが私を見つけ、死人とまちがえて、「ドザエモン・ガ・ウイ・トル」と呼びはじめた。私がそれに気がつかないうちに30人ばかりの人が岸に沿ってついてきた。そこで私は土左衛門と衝突しないことを祈りながら岸に泳ぎつくことにした。ところが驚いたことに、岸にあがると土左衛門と思われたのは私だったのである。それ以来私は余りながく浮き身をやらないようにした。

パトカー同乗記

白川渥



県警本部統制室で（写真上）パトロール中に（写真下）警官から説明を聞く白川渥氏

先夜、県警のパトロールの車に便乗して、夜の神戸の街を一巡した。パトロールの実情を見せてもらおうと言う本誌の企画で、小泉編集長とカメラマンも同乗。

九時過ぎ、警ら本部を出発。高架沿いに三宮まで出たところで、統制室より無線の指令がはいった。布引のI旅館横で、駐車中の車のクラクションが鳴りつづけているとのこと。附近の住民からの一

一〇番への報らせである。さつそく現場に急行してみると、それらしい車が闇の路傍に駐車していたが、すでにクラクションは鳴り止んでいた。たぶん、接続の故障で鳴っていたのだろう。それを持ち主が修理したとみえる。

「うるさい！ 電話しろ！」

おそらくそんなことから一一〇番が使われたにちがいない。電話をかけた人の顔が見えるようである。市民にとって、一一〇番とは便利なものだ。どんな些事でも、コイツを使うと手っ取り早い。そして、わざわざ市民にはコイツを使う権利がある。——と言いたげな市民の顔が浮かんでくるようで、私はちょっとユーワツになつた。

「バーなんぞからかかつてくる飲んだくれの始末には困るでしょ

う？」

前の運転席のお巡りさんに声をかけてみると、

「いろいろありますがね。……」

口を濁ごして苦笑している。

「しょっちゅう一一〇番を利用するバーもありましょ？」

「そうです。さんざん飲ましたあげくの後始末ですわ」

飲んだくれよりも、足腰が立たないほどに飲ませたあげくパトカーに後始末をさせるバーの経営者の方が、もつと厄介で悪質な市民である。彼らは、パトロールを利用し、私用しているヤカラである。あまりにも安直に、パトロールの行動力を利用するなと言いたい。こちらは、大事に備えての待機姿勢にある。消防自動車と変りはない。

加納町に引き返すと、交叉点の時計はカッキリ九時半を指していた。私たちはそこから県警本部の警ら統制室を訪ねることにした。だしぬけの訪問だったが、統制担当の警部さんが如才ない笑顔で迎えてくれる。もられた名刺を見ると、門田幸次郎さん。お名前だけは私も知っていた。ちょいちょい詩や歌を拝見したことのある県警随一？ の文人お巡りさんである。

やけに暑い。いまにも一雨来るそうな宵である。私たちはここで門田警部から統制室のあらましを説明してもらつた。窓側にズラリと

ならんだけ台もの無線が、街に配置されたパトカーと間断なく連絡をとつてゐる。ここからのリモートコントロール（遠隔操作）によつて、パトカーは手足の如く瞬時の行動力を發揮してゐるのだ。

本部を出て、われわれの六号車は会下山から西神戸の山の手に向かつた。その住宅街の迷路のような暗い坂を、車は曲折をつづける無線は沈黙したきり。今夜は平穏無事のようである。坂の途中で

錢湯帰りらしい人影がライトの中に照らされた。パトカーとわかつて、ふと沿客の顔に穏やかな微笑が浮かんだ。善良な市民の顔であつた。こんな片隅の街まで廻つてくれていてことに敬する安堵の色だが、お巡りさんの話では、こんな場合、外人街だと、はつきり声に出して感謝の言葉を投げてよこすそである。

ところで、私はさきほどからお巡りさんの巧妙な運転ぶりに敬服していた。この夏から、わが家の娘も下手な運転をしてゐる。その車でハラハラし通しのせいか、このパトカーの四つの車輪はまるで四本の脚のように屈強に見える。暗夜の会下山の坂路も、住宅街の間道も、われわれの車は一匹の獣のように自由無礙である。しかもお巡りさんの眼は、しょっちゅう路傍の闇にそそがれてゐる。これほどヨソミをする運転手はいないであろう。

十一時を過ぎてから、神戸駅裏でパトカーは止まつた。柵に腰を下ろした。浮浪者風の三人組の不審訊問がはじまつた。一人はイレズミ男。ただのアンコではなさそうな面構え。所持品の中から大阪の質商の質札が出て來た。さつそくカーの移動局でその質商に照会する。無線とは何とも迅速なものである。結局不審はなかつたようだが、質札の正体を確めるまでに数分とはからなかつた。われわれのパトカーは、そこから税関突堤へ出た。もう十二時近い。汐騒の音が、夜の静寂を更に深くしてゐる。シンとした岸壁に人影一つなく、鯨船の國南丸が黒々と巨体を横たえてゐるだけであつた。

三宮のターミナルの空は、まだ明々として宵の口のようである。今夜の便乗はついに何事もなく終つたようだが、ここは国際港都。この汐の香にも、ネオンの空にも、何やら犯罪の匂いがしてならぬい。

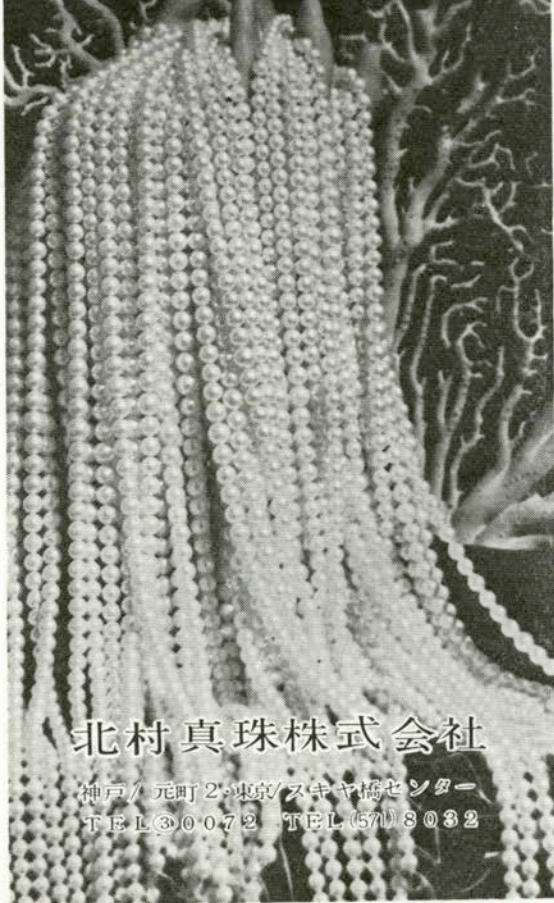


深夜の神戸港で右端白川潔氏



KITAMURA PEARLS

世界の人々に愛される
キタムラパール



北村真珠株式会社

神戸／元町 2^{ch} 東京／ススキヤ橋センター
TEL ③0072 TEL (57) 8032

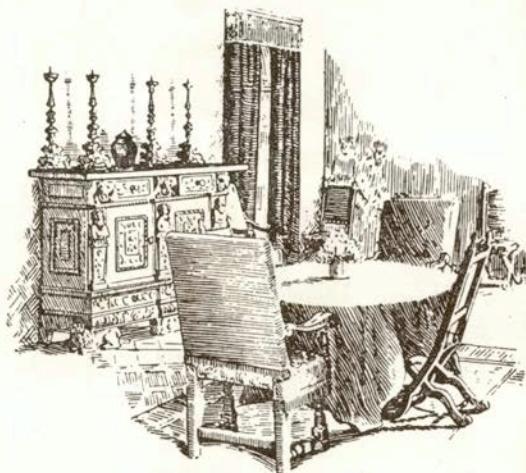
世界中のからほめられた
日本の誇り 神戸のほまれ

マロングラッセは ヒロタの銘菓

お歳暮ご贈答に一番喜ばれます
特に東京送りによく使われています

元町通三丁目 TEL ③二三四〇番

家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

大丸前 TEL { ③ 5520
③ 1290

ROLEX

ローレックス
の時代です



特約店



美田時計店

神戸市生田区元町三丁目
TEL 三宮 (3) 1798